いま新富町のこの人が気になる

SHINTOMI-JIN

#001 今月の新富人

キュウリ農家　猪俣太一さん

1987年生まれ。新富町出身。22歳から父親のもとでキュウリの生産を開始。希少キュウリ栽培のためクラウドファンディングに挑戦したり、スマート農業を積極的に取り入れたりしている。新富町認定農業者連絡協議会代表。最近休日に行ったところはワークマン。ハマっていることは卓球。

キュウリ生産量が全国1位を誇る宮崎県。新富町でもキュウリは町を代表する農産物のひとつであり、90軒ほどのキュウリ農家があります。その中で若手のひとりとして町の農業を盛り上げているのが、猪俣太一（いのまたたいち）さん。印象的な前髪の緑のメッシュは、キュウリをイメージしたそうです。

農業を始めたのは10年前。同じくキュウリ農家をしていた父親のもとで2年ほど経験を積んだあと、独立しました。年間240日、毎日約3000本のキュウリの収穫や箱詰め、手入れなどの作業を行っています。

そんな猪俣さんは「農業をもっと良い方向に変えたい」と、新しいチャレンジをしています。そのひとつが、農業とテクノロジーをかけ合わせた「スマート農業」。猪俣さんが2年前に建てたビニールハウスは、スマートフォンを使って、気温や日射量、二酸化炭素濃度などハウス内の環境を管理・操作することができ、日々のデータがグラフで示されます。このグラフをもとに、できるだけキュウリの育成に理想的なハウス環境を作り上げられるよう、試行錯誤を続けています。

町内にいる30～40代の若手農家6人と、勉強会も開いています。ハウス環境や計測したデータの比較といった作物の話題だけでなく、資金や人材の集め方など経営面についても情報を交換します。また、国から農業のスペシャリストと認められた「認定農業者」が集まる団体「新富町認定農業者連絡協議会」の代表も務めており、役員会を開いての意見交換や研修を実施。こうした集まりは、農家にとって貴重な交流の場となっています。

現在、32歳となった猪俣さんは「自分の人生がターニングポイントに入った」と感じるそうです。これまでは自分の生活だけを考えていればよかったのが、規模の拡大・従業員の増加・結婚と、経営者として、一家の大黒柱としての責任がより強くなりました。一方で「子どもができたら家庭生活を充実させたいし、今でもバリバリ働く両親を休ませてあげたい」とも考える猪俣さん。

今後は、農業法人の設立、そのために一緒に仕事をしてくれる人材探し、そして一般企業のような週休制の導入が目標です。また、町の子どもたちに農業の楽しさを伝える取り組みもしたいと意気込みます。これからどんな躍進を見せてくれるのか、目が離せません。

●新富町でご活躍されている方を編集部までお寄せください。自薦・他薦は問いません。
問総務課 ☎33・6002